

# 令和6年産温州みかん果実の病虫害発生状況調査結果

長崎県農林技術開発センター  
環境研究部門 病虫害発生予察室  
(長崎県病虫害防除所)

## 1 調査の目的

温州みかんの収穫果実の病虫害被害状況を調査し、当年の病虫害発生状況を的確に把握することで、防除指導の参考にする。

## 2 調査概要

### (1) 対象産地

諫早市(多良見)、西海市、大村市、雲仙市(瑞穂)、佐世保市

### (2) 対象農家

各産地の防除暦に準じた防除を行っている生産者1地区3名程度を選定

### (3) 調査対象品種

各産地の主要な品種(早生および普通温州相当:原口早生、宮川早生、させぼ温州など)

### (4) 調査時期

令和6年11月21~12月6日(うち5日間)

### (5) 調査項目

そうか病、かいはよう病、黒点病(前期型、後期型)、灰色かび病、すす病、ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、訪花性害虫、チャノキイロアザミウマ(果梗部、果頂部)、ハナアザミウマ類、サビダニ、ホコリダニ、ミカンハダニ、カメムシ類、風ずれ、その他

### (6) 調査方法

1生産者あたり200個の果実を任意に抽出して病虫害の被害状況を肉眼により観察した。ただし、調査対象は家庭選果前の果実とした。調査は被害程度別に行い、調査項目ごとに被害果率、被害度を算出した。

## 3 調査結果及び考察

### (1) かいはよう病

地点により差があるものの、平年並の発生であった。しかしながら、昨年、一昨年の発生が多く、本年も7月頃までの圃場における葉での発生は平年よりやや多かったため、次作での初期感染の予防のため、せん定作業時の罹病枝の除去をしっかりと行う必要がある。

### (2) そうか病

今回の調査では被害果の発生を確認できなかったものの、春季~収穫前までの圃場における調査では、葉、果実ともに平年並の発生は見られたため、越冬菌による発芽期からの感染に注意し、初期感染の予防を徹底する必要がある。

### (3) 黒点病

前期型病斑は平年に比べやや少なく、後期型病斑は平年並の発生であった。総合的には平年並で

あったと考えられるが、発生状況に地域差が大きく、天候不順等で実施すべき薬剤散布が十分にできなかった園地があったと考えられた。

(4) 灰色かび病

平年に比べ多い発生であった。本年は落弁期にあたる、5月中下旬に曇天が続き、降水量も平年より多かったため、防除のタイミングが難しかったことが要因として考えられた。

(5) すず病

平年並の発生であった。

(6) チャノキイロアザミウマ

果梗部の被害は平年に比べやや少なかったが、果頂部の被害は平年より多かった。要因として、梅雨明け以降の高温・乾燥傾向の気象で推移したため、増殖が助長されたと考えられた。

(7) ミカンハダニ

地点による差が大きいものの、平年に比べ多い被害であった。要因として梅雨明け以降、高温・乾燥傾向の気象で推移したため、増殖が助長されたと考えられた。

(8) カイガラムシ類 (アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ)

ヤノネカイガラムシの被害は平年並であった。アカマルカイガラムシ、ナシマルカイガラムシの被害は、全体を押しなべて見ると平年よりやや多い発生であったが、一部地域での被害は平年より多かった。

(9) ハナアザミウマ類

押しなべて見ると平年並の発生であったが、一部地域での発生がやや多かった。同時防除されるカメムシ類の新世代成虫の発生が例年より早い傾向であった地域もあったため、このような地域では、カメムシ類との同時防除の時期が合わなかった可能性が考えられる。

(10) 訪花性害虫

平年よりやや少ない発生であった。

(11) サビダニ

平年並の発生であった。

(12) カメムシ類

フェロモントラップや予察灯、圃場調査では、新世代成虫の発生は地域により差があるものの平年並~多い発生であったが、今回の調査では被害果の発生は平年並であった。

(13) 風ずれ

平年よりやや少ない発生であった。

(14) 葉害

梅雨明け以降、高温・乾燥傾向で気象が推移しており、診断の持ち込みなどでも銅剤によるものと見られる症状が散見されたが、今回の調査では認められなかった。

(15) その他

主な症状として、日焼け、吸蛾類による刺し傷が見られた。

表 令和6年産温州みかん果実の病害虫発生状況調査結果

地区名	調査項目	かいよう病	そうか病	黒点病		灰色かび病	すす病	チャノキイロザミウマ		ハナアザミウマ類	ミカンハダニ	アカマルカイガラムシ	ナシマルカイガラムシ	ヤノネカイガラムシ	訪花性害虫	サビダニ	ホコリダニ	カメムシ類	風ずれ	葉害	その他
				前期	後期			果梗	果頂												
諫早市 (多良見)	被害果率(%)	1.5	0	29.8	33.7	37.8	0	1.2	9.5	1.0	10.2	0.2	4.8	0	0.2	0.2	0	0.2	18.2	0	0
	被害度	0.2	0	4.9	5.7	6.0	0	0.2	1.4	0.1	1.8	0.0	0.7	0	0.02	0.02	0	0.02	2.6	0	0
西海市 (西彼)	被害果率(%)	1.5	0	2.0	5.8	36.3	0	1.8	10.5	0.5	5.5	0	0	0	0	0	0	0	32.7	0	6.7
	被害度	0.2	0	0.3	1.1	6.7	0	0.3	1.5	0.1	1.6	0	0	0	0	0	0	0	4.7	0	1.0
大村市	被害果率(%)	1.2	0	3.5	33.5	20.5	0	0.7	6.2	0	0	0.7	0	0	1	0.5	0	0.2	20.0	0	5.5
	被害度	0.2	0	0.8	7.1	3.4	0	0.1	0.9	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0.02	3.0	0	0.8
雲仙市 (瑞穂)	被害果率(%)	0	0	11.3	10.8	6.5	0.5	2.0	7.3	0	0	0.3	0	0	0.0	0	0	0	21.3	0	3.3
	被害度	0	0	1.8	1.8	1.2	0.1	0.5	1.2	0	0	0.05	0	0	0.0	0	0	0	3.4	0	1.0
佐世保市	被害果率(%)	0	0	0.7	45.5	19.5	0	0.7	5.0	1.7	1.0	8.2	1.0	0	0.2	0	0	0	29.8	0	12.2
	被害度	0	0	0.1	8.1	3.5	0	0.1	0.7	0.3	0.3	2.2	0.1	0	0.0	0	0	0	4.4	0	2.1
県平均	被害果率(%)	0.8	0	9.5	25.9	24.1	0.1	1.3	7.7	0.8	3.5	1.9	1.2	0	0.2	0.1	0	0.1	24.4	0.0	5.5
	被害度	0.1	0	1.6	4.8	4.1	0.02	0.2	1.2	0.1	0.8	0.5	0.2	0	0.04	0.03	0	0.01	3.6	0.0	1.0
平年値 (H26~R5 平均)	被害果率(%)	0.8	0.1	13.6	27.5	15.8	0.2	4.2	3.4	0.9	1.7	1.5	0.6	0	0.7	0.1	<b>0.3</b>	0.09	38.8	0.12	1.4
	被害度	0.2	0.03	3.2	6.3	2.9	0.03	0.8	0.6	0.2	0.4	0.3	0.1	0	0.1	0.02	<b>0.05</b>	0.01	7.5	0.024	0.3

A(4):被害が著しく目立つもの B(3):被害が目立つもの C(2):被害がやや多く見られるもの D(1):被害が散見されるもの

$$*被害度 = \frac{7A+5B+3C+D}{7 \times \text{調査果数}} \times 100$$

※ホコリダニの平年値は、R3年調査より項目設定したため、R3、R4の平均値を記載  
 ※※その他の項は、日焼けなどが該当